

## 第7回宇都宮市自治基本条例を考える会議（概要）

日時

平成19年1月23日（火）

会場

宇都宮市役所 14大会議室

出席者

- ・ 委員 井上委員，藤本委員，阿部委員，鎌倉委員，佐々木委員，添田委員，築委員，渡辺委員，浅野委員，梅林委員，片岡委員，片桐委員，川嶋委員，郡司委員，小針委員，酒井委員，高山委員，船津委員，本田委員，川又委員，佐藤委員，陣内委員，砂長委員，寺崎委員，中島委員，山野井委員，金沢委員，半貫委員，熊本委員，大竹委員，福田委員，中山勝二委員，五井渕委員，高井委員，砂川委員，柴田委員（委員名簿順）
- ・ 事務局 行政経営部次長，行政経営課行政改革担当主幹，行政経営課行政経営システムグループ係長，法制グループ係長，事務局職員

会議経過

### 1 開会

### 2 協議

#### (1) 自治基本条例の基本的な考え方について

- ・ 事務局より資料1の説明
- ・ 前回と同じく4つのグループにおいて意見交換し，結果を発表
- ・ 以下の事項を確認した上で，事務局案を条例の基本的な考え方として今後の作業を進めていくこととした。
  - ア 自治基本条例は，自治に関する基本的で普遍的な事項を広く記載していくものであること
  - イ 最高規範性（条例の位置付け）については今後も検討
  - ウ 条文数については，各委員の意見を尊重するため，現時点では限定しない。

#### 各グループからの発表（要旨）

（D，C，B，Aグループの順に発表）

##### Dグループ

（ホワイトボードに，頭，ハート，手，足を持つ人が，台の上に立っている図を記載し，その図をもとに説明があった。）

- ・ ここに書いた人が着地しているのは、私たちが、この自治基本条例を制定する意義となる環境である。この環境は3つに分かれており、下から、「経済的な生活基盤」、「政治の方向」、「自治体の方向」である。この環境に、何らかのインパクトがあるから自治基本条例を検討しているのであって、これがないと会議自体が存在しない。
- ・ 「経済的な生活基盤」は、グローバルな競争社会の只中にある。「政治の方向」は、地方分権化に向けた改革の嵐の中にあろう。自治体の方向は、「魅力と活力に富む宇都宮市」である。
- ・ 頭にあたる部分に、「市民」と書かせて頂く。この市民が求めているのは、「住んで良かった、住んでみたい、住み続けたい宇都宮市」である。
- ・ 片方の手は市政、執行機関であり、他方の手は議会である。市政、執行機関には「開かれた市政」が求められ、議会には「市民力を高め、無駄のない市政にしていこう」と求められているのではないかと。
- ・ 中心にはハートがある。ハートも大きく3つに分けられるのではないかと。下から、1つ目に「自立」、2つ目に「共感」、一緒に働こう、汗をかこうということ、3つ目に「コミュニティ」、家庭や、地域、自治体である。
- ・ これらが、自治基本条例の要素の全てではないかと。
- ・ 発表者として、想像力を駆使してまとめたところもあるが、Aグループの議論してきた内容は、大方このようになると思う。

#### Cグループ

- ・ 私たちが議論して発表してきた内容が、本日配布された参考資料「自治基本条例に盛り込みたい事項」の中に全て凝縮されており、これをもとに、今後条文を考えていく作業がスタートするのだという前提で発表させて頂く。
- ・ その作業をどのように行うのかについても、今まで多くの意見が出されてきたが、これをまとめたのが資料1であると考えている。
- ・ この資料1について、良い悪いを論じずとも、これはこれで良いのではないかと。今後条文をつくるにあたって、例えば、ですます調であるのか、である調であるのかは、結果的にわかりやすい表現であれば、どちらでもいいのではないかと。いろいろ考えた結果、例えば条項数が60条になってしまうのであれば、それはそれでいいのではないだろうか。その時点で、また皆さんで60条が良いのかどうか、改めて話し合えばいいのではないかとということになった。
- ・ 現時点での考え方としては、ここに書かれている案で良いのではないかと、という結論である。ただし、この自治基本条例を最高規範として、どのように位置付けるのかについては今後問題となってくるのではないかとという意見があった。

#### Bグループ

- ・ 資料1の順番に沿って議論した。

- ・ 「１ 広く市民に理解される，わかりやすい条例とする。」については，ですます調が良いという意見が出た。市民になじみやすい表現だからである。ただし，例えば「最高規範」という言葉は，他の言葉で言い換えが難しいので，定義して使ったらどうかという意見もあった。
- ・ ２，３の項目についても広く意見を出し合ったが，特に「３ 宇都宮市らしい」というところで，宇都宮市らしさとは何だろうかという議論になった。二荒の山，大谷，さらに，新しく宇都宮市にやってきた人々との交流を盛り込んだらどうかという意見があった。宇都宮市はもともと人口は多くなかったらしいが，工業団地が出来てから，新しく転入してきた人々との融和をはかり，コミュニティを形成してきたとのことである。
- ・ 「宇都宮らしさ」は，非常に難しいという意見もあった。人間も，ある具体的な個人が，その人らしさを出していくのは難しい。難しいのだけれども，話し合って，「らしさ」を見つけていかなければならないのではないかと考える。
- ・ これは，「２ 長く市民に親しまれる条例とする。」の「宇都宮の地理的環境，歴史，文化や，優れているもの，誇れるもの」にもつながっていく。これらを盛り込むことで，広く市民が理解できる条例となっていくのではないか。
- ・ この条例を小中学生に理解してもらうためには，学校教育に取り入れていくという方法もあるのではないかという意見があった。
- ・ 資料１にもあるが，三鷹市の前文が格調高い表現になった，言葉を変えて言えば法的な用語が多く使われるようになったのはなぜか。確か三鷹市は市民会議で議論されていたはず。次回以降，事務局に情報提供して頂きたい。

#### Aグループ

- ・ Aグループも，資料１に基づいて，議論を進めた。
- ・ 「１ 広く市民に理解される，わかりやすい条例とする。」については，「わかりやすい，かつ簡素・簡潔」であるというのは，相反する目標ではあるが，良いのではないか。
- ・ 前文は，四日市市のように，やわらかく，わかりやすく，ですます調が良いのではないか。
- ・ また，カタカナはなるべく避ける，外国人にもわかりやすい，市民共通の表現にしていきたい。
- ・ 文京区の例を見て，条例をつくる際に，ある程度言葉が凝縮されていくのは覚悟しなければならないと感じた。普遍的な言葉，誤解を生まない言葉になるのはいたしかたない。しかし，文京区の例にならい，議論をする段階では私たちの思っているたくさんの意見を出して，その後市民としての品性を持って，美しい日本語にこだわって文章を組み立ててみたい。
- ・ 宇都宮市には，７，０００人程度の外国人の方がおられるとの事だが，宇都宮

市の市民としてこの条例を共有して頂きたい。宇都宮市民の品性を持った、美しい言葉を共有して頂けたらいいなと思う。

- ・ 「２ 長く市民に親しまれる条例とする。」については、「(1)宇都宮の地理的環境、歴史、文化や、優れているもの、誇れるもの」を、やはり入れたいと考える。ジャズ、餃子、かんぴょうとかいろいろあると思うが、ここにいる委員だけでも、思い描くものは微妙にずれがある。それらをぐっとひとくりにできるようなものが、ここで共有できたら良いなという意見が出た。
- ・ 「(2)社会情勢等により変わりやすい個別具体的な制度等の詳細を規定するより、自治の普遍的・理念的事項を記載」の部分は意見が分かれた。あるべき地域の自治ということでは、今の自治の問題・課題にある程度、表現に気を付けて触れるべきではないかという意見が出た。一方で、細かいことには触れず、基本的な柱だけを述べるのが良いのではないかという意見もあった。
- ・ 「普遍的」とあるが、必要に応じて、説明的な表現も使うべきであろう。
- ・ 「３ 宇都宮市らしい自治を育むための条例とする。」というところでは、「宇都宮の特色を生かした自治を推進するために、市がこれまで培ってきた、各種の仕組み・取組を本条例に位置付け」することは良いことだろうという意見と、一方で、何がなんでも入れるのではなくて、項目を吟味すべきだという意見が出た。
- ・ 「宇都宮市らしい自治」というところでは、自治の区割りの議論になった。小学校区単位が自治の単位としてはわかりやすいのだろうけれども、組織によっては、いろいろなまたがり方をしている場合もある。行政の区割りではなくて、市民自治が効率良く行われるような区割りを考えていくべきではないかという意見が出た。

#### 委員からの主な意見・質問等（要旨）

##### 委員

Cグループの発表にもあったが、参考資料の「条例に盛り込みたい事項」は、この会議で承認されたものではないということで良いか。この資料の位置付けについて聞きたい。

##### 事務局

今後分科会に入っていくときに、他の委員の意見を踏まえて議論して頂きたい。その際、どのような意見が出ているのかわかるようにした資料である。内容的に幅があったり、具体的な内容になっていなかったり、留意事項が数多く記載されていたりする部分があり、この資料をたたき台として議論を深めていただきたい。

本日は、条例の基本的な考え方を議論して頂く際に、今までどのような意見が出ていたかわかるように参考資料として急遽配布させて頂いた。

##### 委員

Aグループの発表にもあったが、文京区の例にもあるとおり、最終的な条文は非

常に洗練された形にまとまっていくのだろう。しかし、その言葉が、どのような思いで、どのような議論を経て決まっていたのかが、常に振り返ることができるようになっていることが重要だと考える。

宇都宮市の自治基本条例においても、最終的にできあがったものが、どのような議論を経て、どのような考えを積み上げてきたのかが常に振り返ることができるようになっていなければならない。

次に、「長く市民に親しまれる条例」、「宇都宮市らしい自治」というところに関係してくるが、宇都宮市の自治はどのような状況なのか、直面している課題とは何か、宇都宮市の自治の良いところとは何なのか等をしっかり議論すれば、宇都宮市における「らしさ」も見えてくるのではないか。

そのような中、自治会の加入率が低下しているとか、加入率を上げなければならないとかという議論がある一方で、今の形の自治会自体が必要なのだろうか、それに代わる自治のあり方はあるのだろうか、という意見もある。転入によって人口が増加したのは比較的最近のことであるので、宇都宮市には新しい仕組みを受け入れやすい市民性があるのかもしれない。例えば、従来型の地縁型コミュニティにテーマ型のコミュニティが融和した、新しい自治をつくっていくことができるのかもしれない。そのようなところから、宇都宮市らしい自治のあり方が見えてくるのではないかと思っており、今後議論していきたい。

委員

条項数は、今の時点ではあまり考えなくても良いのではないか。文京区の例が出ていたが、あれ程凝縮してしまうと、委員の意見がどの程度反映されているのか疑問であるという意見も出た。最初に条文数を限定すると、委員の考えが消えてしまうのではないかと懸念されるので、今の時点ではこだわらなくて良いと思う。

委員

四日市市の前文は参考にできる内容だと思う。「三重県下最大の人口を有する中核都市として」という文言があるが、一つの願望という形で、宇都宮市も具体的に、「このような都市でありたい。」ということを謳い込んでも良いのではないかという意見があり、またAグループでは皆さんの賛同を得ていた。

### 3 その他

- ・ 事務局から資料2に基づき今後の会議の進め方について説明し、事務局案のとおり進めることとした。

#### 委員からの主な意見・質問等（要旨）

委員

この会議も7回を経た。議論がかなり進んできているとすれば、骨が決まり肉を付けてしまう前に、中間報告的なものが一度あっても良いのではないか。年度も終わり

になることでもあるし，中間報告的に市の広報に載せる等の方法もあるだろう。現在ここまで来ているということを出したらいいのではないか。

事務局

次回，第８回に，本年度行ってきたことをまとめたいと考えている。平成１９年度の進め方ももう少し詳しいものを提示し，議論して頂きたいと考えている。

#### 4 閉会